資料3

諸　　報　　告

		ページ
第１	前回幹事会以降の経過報告	
	１　会長等出席行事	1
	２　幹事会声明	1
第２	各部・各委員会等報告	3
	１　部会の開催とその議題	3
	２　幹事会附置委員会の開催とその議題	3
	３　機能別委員会の開催とその議題	3
	４　分野別委員会の開催とその議題	4
	５　課題別委員会の開催とその議題	5
	６　記録	5
	７　サイエンスカフェの開催	6
	８　総合科学技術会議報告	6

第１．　前回幹事会以降の経過報告

１　会長等出席行事

月　　日	行　事　等	対　応　者
9 月 22 日（木）	産学官連携推進会議	広渡会長
9 月 26（月） ～10 月 1 日(土)	ICSU 総会	唐木副会長
9 月 29 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	広渡会長
10 月 2 日（日）	STS フォーラム・アカデミープレジデント会合	広渡前会長、秋山前副会長

（注）部会、委員会等を除く。

２　幹事会声明

日本学術会議幹事会声明

「東日本大震災からの復興と日本学術会議の責務」

2011 年 3 月 11 日、東北・太平洋沖を震源とした大地震、それに続く大津波、そしてこれらを誘因とする東京電力福島第 1 原子力発電所の深刻な事故は、未曾有の複合災害として東日本地域を襲い、甚大な被害をもたらしました。その日から半年が経過しました。この間、日本学術会議は、3 月 18 日の緊急集会の開催と幹事会声明の公表を起点として、東日本大震災への対策を行う特別の体制を構築しました。その下で、大災害からの復旧・復興および原発事故への対処について緊急の提言活動を集中的に進め、放射線被害からの防護について広く市民への説明活動を行い、また海外アカデミーに対して原発事故に関する報告書を発信しました。さらに、これから加速すべき復興について、計画や具体的な措置等を政府および関係機関に提案するとともに、日本の今後のエネルギー政策のあり方について国民的議論に資するための調査報告を社会に提示したところです。

このように日本学術会議は、これまでにない密度の高い活動を展開してきました。とはいえわれわれは、日本学術会議がその責務を十分に果たしえたとは考えていません。大震災からの復興は、まだ緒についたばかりで多くの困難を抱え、また、原発事故の最終処理の終了に至るまでおそらく一世代にも渡る時間を要することが予想されます。日本学術会議は、これらの課題解決に向けて科学・技術の弛まぬ進展を追求し、全力で取り組むことこそ、いま問われるべき責務であるとの自覚を深くしています。東日本大震災からの復興のための取組みをいっそう前進させるにあたって、日本学術会議はこの半年の活動を振り返り、1 つには政府との関係について、もう 1 つは広く市民との関係について、その新たな構築が必要であると考えます。

未曾有の複合災害の中で必要とされたのは、科学者の英知を結集して政府への的確な助言・提言を行うことでありました。このことをあらためて考えなければなりませ

ん。個々の科学者が専門的知見をばらばらに述べるだけでは、社会に対しても政府に対しても科学者の社会的責任を果たしえる適切な助言となりえません。それゆえ科学者コミュニティーは、特定の理論や見解に依拠するような偏ったものではなく、多くの専門知に基礎づけられる俯瞰的、中立的な検討を通じて統合的な知を形成し、それに基づいて社会と政府に助言・提言を行うことを求められます。他方、政府は、科学者コミュニティーが自立的に活動することを保障し、科学者に対して問題に関する情報を広く開示し、科学者コミュニティーの助言・提言を政策的判断の基礎として考慮することが求められます。いうまでもなく、科学者コミュニティーの助言・提言はあくまで政策決定者への助言であり、政策決定が依拠しうる根拠の１つを提示するものにとどまります。

日本学術会議は、国民に対する責務として、政府に対して科学者コミュニティーからの有効にして適切な助言・提言を１つの声として（複数の選択肢の提示も含めて）まとめあげることを課題としています。今回の緊急事態のなかで、われわれはどこまでこの責務を追求しえたかを自省しなければなりません。日本学術会議は、自らの職務を独立に行うという原則の下、科学者コミュニティーから統合的な知を形成するための方法と原則をより深く検討し、政府との信頼関係の構築に努め、国民の困難を解決するべく政府への助言・提言活動を前進させる決意です。政府に対しても、日本学術会議のこのような役割を考慮のうえ、科学的助言についての位置づけを検討することを要請します。

この半年の活動の中で、社会と政府への助言・提言活動とならんで、その必要性が強く感得されたのは、市民に対する説明の活動です。とくに放射性物質の被害からの防護の問題は、広範囲の地域に渡り、かつ、大気、水、土壌、農作物、水産物、家畜、野生動植物、森林等のあらゆるものへの広がりにおいて、市民の生活と健康に大きな不安を引き起こしました。日本学術会議は、この問題について専門家によって構成する放射線の健康への影響と防護分科会を設置し、シンポジウムの開催などを含めて対応し、また防護基準の考え方に関する会長談話も発出しました。ここにおける日本学術会議の活動は、社会に対する助言・提言の趣旨とあわせて日本学術会議が任務の１つとする科学リテラシーの普及という性格をより強く示すものでした。

市民への説明の活動において明らかになったのは、科学者が明確な科学的知識を市民に伝達することだけではその役割が果たせないということです。市民の感じる問題、抱える不安、解決への展望を知る要求に対して、学術の側が常に明確な回答を持ちえているわけではありません。現代社会において、科学にとって問われるが答えられない問題の存在は、すでに多く指摘されているところです。社会のための科学（science for society）のコンセプトは、科学者が証明された知を社会に提供することでよしとするのではなく、社会のなかで科学者ができるかぎりの科学的知識を提供しながら、市民と問題を共有し、そのコミュニケーションの中で解決を共に模索するというあり方を要求するものであると考えます。日本学術会議は、このような視点から今後いっそう創意的な取組を進める覚悟です。

日本学術会議は、9 月末をもって第 21 期（2008 年 10 月―2011 年 9 月）を終え、10 月から新体制の下で第 22 期の活動を開始します。第 22 期において、東日本大震災からの復興を目指し日本社会の展望を切り開く活動が新たな力をえてさらに前進することを誓い、以上のように声明いたします。

2011 年 9 月 22 日

日本学術会議幹事会

会長	広渡	清吾
副会長	大垣	眞一郎
同	秋山	弘子
同	唐木	英明
第一部長	小林	良彰
同　副部長	木村	茂光
同　幹事	酒井	啓子
同　幹事	白田	佳子
第二部長	浅島	誠
同　副部長	福井	次矢
同　幹事	山本	正幸
同　幹事	鷲谷	いづみ
第三部長	岩澤	康裕
同　副部長	後藤	俊夫
同　幹事	池田	駿介
同　幹事	永宮	正治

第２．　各部・各委員会報告

１　部会の開催とその議題

なし

２　幹事会附置委員会の開催とその議題

（１）**東日本大震災対策委員会**（第２５回）（９月２２日）

①エネルギー政策の選択肢分科会からの報告（案）について

②被災地域の復興グランド・デザイン分科会からの提言（案）について

③その他

３　機能別委員会の開催とその議題

（１）**科学と社会委員会科学力増進分科会**（第２０回）（９月２９日）
①サイエンスカフェについて
②サイエンスアゴラについて
③学術叢書について
④「日本における科学コミュニケーション学」について　⑤その他

４　分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

（１）**社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会**（第１０回）（９月３０日）
①報告
１）学術会議の動向　２）その他
②協議
１）今期のとりまとめについて　２）次期への申し送り事項について
３）その他

第二部担当

（１）**基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生態科学分科会**（第８回）（９月２７日）
①この間の学術会議の状況報告（鷲谷委員）
②理工農系分野における分野別参照基準の検討について
③第２１期生態科学分科会の総括　④次期への申し送り事項の審議
⑤その他

（２）**健康・生活科学委員会生活科学分科会**（第２１回）（９月２７日）
①教養教育科目「生活する力を育てる」の冊子作成について
②生活科学系コンソーシアム総会について　③その他

（３）**農学委員会・食料科学委員会合同ＣＩＧＲ分科会**（第１３回）（９月３０日）
①ＣＩＧＲ国際シンポジウム２０１１の終了について
②ＣＩＧＲ国際シンポジウム２０１１の報告書について
③今後の分科会について　④その他

第三部担当

（１）**環境学委員会自然環境保全再生分科会**（第５回）（９月２１日）
①復興国立公園の計画策定について
②愛知目標の具体的取組について　③その他

（２）**総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会**
（第６回）（９月２２日）
①今期の活動のまとめ　②その他

（３）**総合工学委員会・電気電子工学委員会合同ＩＦＡＣ分科会**（第１３回）
（９月２６日）
①ＩＦＡＣ世界大会（ミラノ）の概要報告
②総会、Council Meeting、Technical Board、Executive Board Committees
などにおける審議内容に関する報告
③上記の報告内容に関する協議
④第２２期　ＩＦＡＣ分科会の体制について　⑤その他

（４）**総合工学委員会原子力事故対応分科会**（第４回）（９月２６日）
①各ワーキンググループ報告
②今後の活動方針について　③その他

（５）**地球惑星科学委員会ＩＵＧＳ分科会ＩＧＣＰ小委員会**（第４回）（９月２６日）
①新しいプロジェクトの申請について
②第２２期におけるＩＧＣＰ小委員会の構成について
③次期ＩＧＣＰ小委員会の委員長及び幹事について
④各プロジェクトの活動状況について　⑤その他

（６）**土木工学・建築学委員会河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会**
（第１３回）（９月２８日）
①公開説明会についての意見交換と事前準備　②その他

５　課題別委員会の開催とその議題

なし

６　記録

第三部関係

作成日										委員会等名	委員会No								標題
平成	2	3	年	0	9	月	3	0	日	総合工学委員会・機械工学委員会合同　工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会事故死傷者ゼロを目指すための科学的アプローチ検討小委員会	2	1	5	5	0	7	0	1	事故死傷者ゼロを目指すための科学的アプローチ検討小委員会審議記録
平成	2	3	年	0	9	月	3	0	日	機械工学委員会 製品設計の科学分科会	2	1	5	6	0	4	0	0	製品設計ーその課題
平成	2	3	年	0	9	月	3	0	日	総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会	2	1	5	5	0	4	0	0	エネルギーと人間社会に関する分科会の活動（20期、21期）
平成	2	3	年	0	9	月	3	0	日	総合工学委員会 工業基盤における知の統合分科会	2	1	5	5	0	3	0	0	知の統合の体系化と推進に向けてー工業基盤からの視点

７　サイエンスカフェの開催

なし

８　総合科学技術会議報告

１．本会議

なし

２.専門調査会

なし

３.総合科学技術会議有識者議員会合

９月２９日　会長出席